

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月23日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 4571700550 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人報酬会 | | |
| 事業所名 | グループホーム高崎ひかり | | |
| 所在地 | 宮崎県都城市高崎町大牟田1260番地2 (電話) 0986-62-5335 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 宮崎県宮崎市原町2番22号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年3月12日 | 評価確定日 | 平成22年4月23日 |

【情報提供票より】 (平成22年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|---------------------|------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 15年3月1日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 10 人 | 常勤6人, 非常勤4人, 常勤換算8人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------------|------|
| 建物構造 | 木造コロニアム葺 造り | |
| | 1階建ての | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|--------------|------------|---------|
| 家賃(平均月額) | 23,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 円 |
| 敷金 | 有 (100,000円) | 無 | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有 () 円 | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | | 1,050 円 |

(4) 利用者の概要(平成22年2月15日現在)

| | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 27 名 | 男性 3 名 | 女性 24 名 |
| 要介護1 | 8 | 要介護2 | 11 |
| 要介護3 | 6 | 要介護4 | 2 |
| 要介護5 | 0 | 要支援2 | 0 |
| 年齢 | 平均 87 歳 | 最低 74 歳 | 最高 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------|
| 協力医療機関名 | 川井田医院、中崎歯科医院 |
|---------|--------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入った高台の住宅地の中にホームはあり、静かな環境ではあるが、近隣には、中学校やスーパーが点在し生活拠点には恵まれた環境にある。法人の理念である「やさしさ」「笑顔」「利用者と共に」の理念を大切に、利用者の穏やかでその人らしい生活が出来るよう支援している。特に医療面での対応は、定期的に利用者の情報提供書を事前に医療機関に提供し、医師の定期往診につなげ利用者が安心して暮らせる取り組みをしている。地域との交流を深め、地域に根ざしたホームを目指すため、管理者を始め職員は、地域とのかかわりに苦慮しているが、前に進みたいという思いは伝わってくるホームである。

【重点項目への取組状況】

| | | |
|------|---|---|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で課題となった自己評価や終末期ケアについては、全員で取り組み職員の自信につながっている。理念や理念の共有、地域とのつき合いや災害対策、鍵をかけないケアへの取り組みは、引き続き課題となっている。 |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者と職員は、自己評価・外部評価の意義とねらいについて理解している。今回は、全職員で自己評価に取り組み、検討会を重ねながら作り上げている。 |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政職員、地区の民生委員、家族代表、近隣の福祉有職者、ホームの職員等の参加の下、2か月に1回定期的に開催し、ホームでの支援内容や暮らしぶりを伝えている。また、参加メンバーとの情報・意見交換等がホームのサービス向上に生かされている。 |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会はあるが活動しておらず、年間行事の際に参加される家族も少ないため、ホームからの報告の場面や家族間の交流の場が少ない。しかし、家族の来訪時に、利用者の健康状態や生活状況を報告するとともに、遠方の家族には電話にて希望や要望を聞き、継続した関係づくりに努めている。 |
| 重点項目 | ⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会には加入しておらず、地域交流のための情報は得られにくい。地域から求められる地域密着型のホームに近づくため苦慮している現状である。地域交流を図るきっかけとして、ホーム便りを発行する予定にしている。 |
| | ⑥ | 毎月訪問される踊りのボランティアを、利用者はとても楽しみにしている。 |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 社会福祉法人報謝会としての理念は、「やさしさ」「笑顔」「利用者と共に」と掲げてあるが、ホーム独自の理念を作り上げていない。早速外部評価後、職員と理念について検討し、独自の理念を作り上げたいという意欲的な言葉が得られた。 | ○ | 法人の理念は大切にしつつ、職員全員の意見を吸い上げ、ホーム独自の理念をぜひ作り上げてほしい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 法人の理念は掲示してあるが、職員会議や申し送り時などで、理念に近づけるための検討は行われていない。 | ○ | 全職員が、理念を意識し業務に生かすことができるよう会議や申し送り時を活用した取り組みをお願いしたい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会加入を検討したが難しく、地域交流のための情報は得られにくい状況にあり、近隣の住民も日中不在になる家が多いため、ホームからの積極的な交流は図れていない。今後、地域交流のため、ホーム便りを発行する予定である。ホームへは毎月踊りのボランティアの来訪があり、利用者の楽しみの場になっている。 | ○ | 地域との関係を大切にすることで、地域で支え、支えられる関係を築き、利用者の安全や生活の広がり、生活の質をあげていけると考える。ぜひ、地域との関係強化に取り組んでほしい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者と職員は自己評価、外部評価の意義とねらいについて理解しており、自己評価は職員全員で取り組んでいる。外部評価の結果を踏まえ、改善に向け職員全員で取り組んだ内容もあり、職員の自信につながっている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行政職員、民生委員、家族代表等の参加の下、2か月に1回定期的に開催し、ホームでの支援内容や、暮らしぶりを伝えている。また、参加メンバーとの情報・意見交換等がホームのサービス向上に生かされている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 管理者は、市担当者と運営上の報告や課題等について、気軽に相談できる関係を築いている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族の来訪時に、利用者の健康状態や生活状況を報告し、継続した関係づくりに努めている。利用者の暮らしぶりやホーム行事の写真が載ったホーム便りを作成し、家族に発送する準備が出来ている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置しており、家族の来訪時や遠方の家族には電話にて希望、要望を引き出すよう努力している。 家族会はあるが現在活動しておらず、年間行事に参加する家族や、ホームから報告する場面、家族間の交流が少ない。 | ○ | 家族会を再開し、意見の出しやすい環境を作り、家族と共に利用者を支援する取り組みがなされることを期待したい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 管理者は、利用者へのダメージを防ぐことと、なじみの関係を継続させることを大切に、交代時に不安がないような配慮を心がけている。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部、外部研修の年間計画が作成されておらず、職員の体制も関係するとは思いますが、研修の機会が少ない。外部研修は参加した職員がスタッフ会議等で復命し、全職員で共有できるように取り組んでいる。 | ○ | 法人内研修を計画していただき、働きながら学ぶ機会を増やすと共に、全職員が研修等に参加できる仕組みづくりをぜひ取り組んでほしい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会へ管理者や職員も参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。同法人内のグループホームの管理者会議では、情報交換は密に行っている。また、同法人ネットワークで、法人内のホームの状況も毎日把握できるシステムが出来上がっている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始前に見学の受け入れを行い、場の雰囲気になじめるよう支援している。一泊体験を行い、入居につながったケースもある。また、職員が自宅や病院を訪問して、家族や利用者の要望や不安を聞き、安心、納得してから利用が出来るよう努めている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者から生活の知恵を学び、笑顔やねぎらいの言葉をもらうことで、職員の励みにつながっている。残存機能を大切にし、利用者ができることは、時間を要してもサポートし、できた喜びを共に感じることを大切にしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者ごとに生活の様子や状態の変化など、職員が気づいたことを詳細に記入している。観察記録する職員は毎月交代し、さまざまな視点で状態把握に努め、行動や表情の中からも希望や意向をくみ取るよう努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族や利用者の思いを取り入れ、介護計画に基づいた検討会を定期的に行い、利用者本位の介護計画につながるよう取り組んでいる。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 随時及び定期(3か月に1回)で見直しを行っている。また、月1回のスタッフ会議等では利用者それぞれについて検討し、現状に即した計画を作成している。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の要望に応じて、病院受診や必要な買い物、外出の支援を行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医による月に2回の往診体制があり、緊急時にも対処してもらえることで、利用者・家族の安心につながっている。 掛かりつけ医への定期受診は職員が付き添い、日常の状態を報告し、適切な医療が受けられるよう配慮している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 医療連携がスムーズに図れるようになり、昨年は、医師・看護師・家族・職員の協力で、看取りを行っている。 重度化した場合や終末期など、家族にも具体的な説明をし、段階を踏んで話し合っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員の声かけは非常に丁寧でゆっくりとしたやさしい雰囲気を感じられた。 プライバシーにかかわる書類は事務所で管理されており、個人情報保護を尊重した取り組みがみられた。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員人員配置や業務によっては、若干ホームのペースでお願いすることもあるが、その中でも、利用者の希望を聞き、無理強いしないようにしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は全ての職員が利用者を介助したり、声かけしながら一緒にゆっくりとしたペースで支援していた。 食前の準備や食後の後片づけなど、可能な利用者がゆっくり行い、職員は見守り、感謝の言葉を伝えている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 週に3回～4回、午前中に入浴を行っている。利用者からの希望等がある場合、毎日の支援も行っている。 利用者の希望に応じた入浴剤を使い、くつろいでもらえるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 役割として掃除、中庭での野菜作り、食事の準備・片づけ、洗濯物たたみなどを手伝ってもらっている。季節にはあくまき作りや干し柿作り、つわむきなどの作業を行い楽しめるようにしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 季節の定期的なイベントなどの外出は行っているが、日常的な外出支援までは至っていない。 | ○ | ホーム内の生活にとどまらず、一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かけられるように積極的に支援して欲しい。 |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 管理者、職員は鍵を掛けることの弊害を理解してはいるが、離設される方がおり安全確保のため、鍵をかけている。 今後、職員全員で鍵をかけない時間を増やす取り組みをしたいという意欲的な意見が得られた。 | ○ | 常時鍵をかけることで、利用者、家族、来訪者が受ける閉塞感からは、良い印象は受けにくいと考える。 職員の人員体制もあるかとは思いますが、開かれたホームを目指すため何が重要か検討してほしい。 |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 定期的に、避難訓練や消火通報訓練を実施しているが、地域住民や地区の消防団が参加しての訓練は行われていない。 | ○ | 災害時の避難誘導や保護には、地元消防団や地域住民の協力が必要となるため、日ごろから協力が得られるよう働きかけ、地域参加の訓練になることを期待したい。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量、水分量、体重などきちんと記録、整理されていた。 献立は法人内の栄養士が作成しており、バランスのよい献立となっている。 利用者一人ひとりの好みを把握し、体調不調時にも参考にし支援している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 不快な音や臭気も無く、採光、室温は居心地よく過ごせるよう配慮されている。居間の中央に一段高い畳スペースがあり、利用者が掘りごたつで談笑する姿が見られた。 また、廊下の一角に、いすやラジカセを準備して、利用者がくつろげるスペースを作っている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | たんすやいすなど、それぞれの利用者の使い慣れたものが置かれていた。部屋によっては、利用者が丹精こめて作った作品や絵が飾られ、居心地よく過ごせる支援がなされている。 | | |

※  は、重点項目。